

中央公民館

## 佐倉地区の概要

---

佐倉地区は、京成電鉄軌道の北側の旧内郷村地区と南側の旧城下町地区とに大別される。内郷地区は、宮前地区で宅地開発が進み、その他の地区は田畑が広がっている。また、印旛沼を北にのぞみ、草ぶえの丘、市民の森、岩名運動公園などレジャー施設が数多く集まっている。京成電鉄とＪＲ総武本線、鹿島川にはさまれた旧城下町地区は、未だに城下町当時の面影が所々に残っており、国立歴史民俗博物館、佐倉城址、武家屋敷、順天堂記念館、平成１２年１１月一般公開された旧堀田邸など、歴史と文化の環境に恵まれている。また、城下町の面影を残す台地上に、市役所、裁判所、検察庁そして、市立図書館、市民体育館、市立美術館など公共施設が集中しており商店街も形成している。

公民館は、この台地の南側の低地に（財）印旛都市文化財センター、佐倉保育園と並んで建っている。付近には、平成１１年３月に建設された千葉県印旛合同庁舎がある。ＪＲ佐倉駅、京成佐倉駅ともに徒歩１５～２０分、最寄りバス停からも５分以上かかり、徒歩での来館者には多少不便である。佐倉地区の人口は平成２１年３月末日で、３０，４１９人で昨年に比べ１９４人の増となっているが、ここ１０年位はほぼ、横ばいの状況である。

# 管理・運営の部

## 1. 公民館運営計画

---

### 運営方針

歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。

### 努力目標

利用者に対して、快い対応をするように努める。

より多くの人に利用してもらうよう施設設備の提供に工夫をすると共に、安全管理に努める。

各種の事業内容の充実に努める。

### 事業内容

#### 1. 施設・備品の提供

地域住民各層の利用に応えるため、サービス業務の向上を図る。

##### (1) 施設の提供(団体、グループ単位)

利用時間 午前9時から午後9時30分まで。

ただし、月曜日と祝日は、午後5時00分まで。

休館日 第2・第4月曜日、及び年末・年始(12月28日～1月4日)。

##### (2) 備品の提供(団体、グループ単位)

館外貸与できるもの

机、椅子、拡声装置、キャンプ用具

#### 2. 学級講座

学習機会の拡充と学習内容の充実に努めるため、学級講座の質的向上に努める。

幼児家庭教育学級、少年教育講座、成人教育講座、佐倉市民カレッジ等の実施。

#### 3. 講演会事業

継続的に学習することができない人のために、学習機会の提供を図る。

#### 4. 団体育成

公民館利用グループ・サークル活動の育成と支援を行う。子ども会活動への支援、高齢者ボランティアグループの支援を行う。

#### 5. 文化援助事業

行政機関、文化団体の教育文化行事への協力を図る。

文化団体発表会、文化祭、美術展、音楽鑑賞会、映画観賞会への支援を行う。

## 6．広報事業

公民館の役割や各種文化行事等の情報提供。

中央公民館だよりの発行、各種館外催物、各種ポスター等の掲示、及びパンフレットの配布、公民館の役割や利用の仕方のパンフレット配布。

## 7．展示事業

ロビー、展示ホールの効果的活用を図る。

利用者作品展、各種展示会の開催。

## 8．図 書

図書館と連携の上、学習資料を収集し、活用する。

カレッジ図書コーナーの設置、家庭教育関係の資料の整備。

## 2 . 公民館利用状況

---

年度別利用状況

区 分	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
利用件数 (件)	6,368	6,588	6,730	6,962	7,105
利用人数 (人)	116,316	120,713	118,929	121,361	119,681
開館日数 (日)	333	333	334	333	333

## 事業の部

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	2歳児親子あそび 教室	2歳児と親 17組	6/9・16・20・23 6/30・7/7・14・ 7/21 8回	遊びをとおして、幼児の自主性と豊かな心を育てあげることのできる親の態度を養う。
	親子体操教室	2・3歳児と親 30組	10月～11月 中止	親と子が触れ合いを大切にしながら、子どもの様々な発達を伸ばしていくための講座。
	子育てホットクラブ	1歳児と親 16組	10月～11月 中止	仲間づくりをしながら「家庭のあり方・親の役割」を学び、家庭教育の向上を図る。
	家庭教育講座 親子de食育講座	小学生と保護者 12組	8/30	欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが懸念される中、親子で正しい「食」の知識を身につけるとともに食の大切さを学ぶ。
	佐倉保育園 園庭開放事業	未就学児と保護者	通年毎週2回	佐倉保育園の園庭開放事業のためプレイルームを週に2回提供し、1～2か月に一度カレッジ生のボランティアを投入する。3世代の異世代交流と子育て支援を図る。
青少年教育	自然体感スクール	小学生3～6年生 9名	6/20・7/4・8/8・ 8/9・23・9/5・ 10/3・10/18 8回	印旛沼を利用したカヌープログラムを通して自然に触れ合う機会を提供する。ジュニアカヌースクール。
	チャレンジクッキング	小学生4・5・6年生 17名	7/28・8/1・29 3回	子どもたちに食の大切さを知ってもらおうと同時に自分で食事を作ることの喜びを知ってもらう。また、食から郷土の文化に触れてもらうことで、郷土を愛する心を育てる。
	子どもの居場所作り	小学生 延べ343名	7/21～8/29 16回	公民館を利用しているサークルが、小学生を対象に指導し、日頃の学習の成果を披露する。茶道・華道・調理など。
		延べ99名	7/21～8/31	夏休み期間、学習室2を自主学習の場として提供する。
	佐倉っ子塾共通講座1 「星空教室」	小学生と親 地域住民 延べ93名	8/21・1/23 2回	器材を使わずに、肉眼で見える星や星座を探すことを通じて光害や環境について考える。また、その神話を語ることで、星空の世界に親しんでもらう。
	通学合宿	小学生4・5・6年生 21名	佐倉小 6/28～7/1 佐倉東小 11/8～11中止	異年齢の子供たちが親元を離れ、共同生活することにより、自主性・協調性などを高める。また、地域の住人との交流も図り、明るい地域づくりを期待する。
佐倉地区 防犯パトロール	佐倉地区住民	年10回	青少年の健全育成及び佐倉地区の防犯を目的とし、青少年育成住民会議と合同で京成佐倉駅及びJR佐倉駅周辺の防犯パトロールを行う。	

青少年教育	親子映画会	小学生と親 延べ 1,222 名	8/5 12/25 中止 3/25	青少年対象の映像機材による地域の子どものための健全育成を図る。
	佐倉っ子塾共通講座 1 「夏休み子供水辺探検ツアー」	小学生 16 名 父兄 3 名	8/18	環境保全課、根郷公民館と共催。谷津の生きものや、湧き水・地下水の流れ方などの水の流れについての講義と野外観察を通じて佐倉の川や自然環境を学ぶ。
	佐倉っ子塾共通講座 2 「佐倉工芸くらぶ」	小学生と親 延べ 49 名	8/5・20 2 回	ペットボトルや空き缶といったリサイクル品を利用しておもちゃを作成し、自らが作りたいものを作り上げるといった自主性と創造力を育むと同時に資源の有効利用を通じて資源の大切さを学ぶ。
成人教育	佐倉学入門講座 「佐倉・城下町 400 年と土井利勝」	成人 延べ 248 名	3/6・13 2 回	「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方を対象に、今から 400 年前の佐倉と初代佐倉城主である土井利勝の人物象について学ぶ。
	佐倉学専門講座 「古今佐倉真佐子を讀む」後編	成人 延べ 566 名	6/28・7/5・19・ 7/26・8/2・23・ 8/29・30 8 回	約 300 年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉を学ぶ。
	佐倉学専門講座 「印旛沼の自然」	成人 延べ 53 名	2/6・27 計 2 回	佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史について、周辺の人々の暮らしや印旛沼の地質や地形、水の循環について学ぶ。
	パソコン広場	パソコン初心者 成人 延べ 363 名	4 月～3 月 毎週月～金曜日	パソコンに実際に触れ、操作することによって、パソコンとはどのようなものであるかを体験する。
	パソコンイベント	パソコン初心者 成人 延べ 72 名	11/29 午前・午後 2 回	初心者を対象に、パソコンに興味を持ってもらうと同時に、カレッジ卒業生をボランティア講師として活用する。
	映像教材貸出	登録団体	随時	保有教材 16 ミリフィルム 459 本 ビデオ教材 1847 本
	佐倉学体験講座 「佐倉の民話を語るボランティア団体派遣事業」	小学生 1～5 年生 延べ 1,130 名	9 回	佐倉に伝わる民話を題材とした読み聞かせ講座を行う、市民カレッジ卒業生グループを主体とした出前講座。
地域づくり入門講座 「家庭におけるケイタイルール」	小・中学生と親 44 名	3/13	携帯電話やパソコンによるインターネットに関する知識を深め、情報社会におけるモラルの育成を図る。	

高齢者教育	佐倉市民カレッジ 《であい課程》 第1学年・第2学年 2年間の学習コース 《専攻課程》 第3学年・第4学年 2年間の学習コース (以下の4コース) あったか福祉コース ふるさと歴史コース さわやか情報コース ゆっくり元気コース	第1学年		高齢社会のなかで、市民が健康で生きがいを持ち、地域と連携をもちながら、住みよいまちづくりを考え実践をととした生涯学習の場とする。 「であい課程」では、主に一般教養科目を学ぶ。その領域は、健康・家庭・生きがい・経済・佐倉の歴史・環境・市政・福祉・国際理解・仲間づくり等の学習を行う。特に1年生は、学ぶ意義から入り、仲間づくりに重点を置いた。2年生は、まちづくりを重点に考え、実践した。 「専攻課程」では、「であい課程」を終了後、更に学びたい人のため専門別に学習をした。卒業後の実践活動に役立たせるために、体験学習、話し合い、発表等の学習方法を取り入れた。 公開講座、ミニセミナー等を拡充し、一般への学習機会の提供を図った。
		1組 50名 2組 50名	5月～2月 36回	
		第2学年		
		1組 48名 2組 46名	5月～2月 36回	
		第3学年		
		福祉コース 26名 歴史コース 19名 情報コース 20名 元気コース 26名	5月～2月 20回	
第4学年				
福祉コース 22名 歴史コース 26名 情報コース 19名 元気コース 25名	5月～2月 20回			
団体育成	グループ懇談会	利用団体代表者 185団体	4/23	利用者団体との意見交換をし交流を図り、公民館活動及び利用のあり方について懇談をした。
	佐倉地区子ども会 育成会連絡協議会	加盟子ども会 8団体	随時	子ども会の育成者を養成し、子ども会同士の交流を図る。市子連研修会に参加した。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者 13団体	7/13・12/14 2回	調理室の効果的利用方法を考えるとともに、懇談を通して利用サークル間の交流を図る。
	16ミリ映写機 操作講習	社会教育団体 延べ24名	6/20・10/31・ 1/31	視聴覚機器の操作を習得する機会を提供し、映像機材の活用を図る。
	16ミリ映写機 点検事業	16ミリ映写機保有 施設13台	5/28	各施設所有の16ミリ映写機を老朽化に伴う上映使用時のトラブル防止のため、一括して点検を行う。
	視聴覚教育パソコン研修	16名(佐倉市教職員 2名)	7/23・24 印西市立中央 公民館	教職員に対してパソコンを利用した視聴覚教育(プレゼンテーション)を行えるように、パワーポイントの講習会を郡共催実施する。
広報活動	中央公民館だより	佐倉地区	1回 1,500部	公民館の事業紹介や募集、地域の情報を提供した。
	「なかま」	成人	毎月1回 各1,200部	市内高齢者から広く原稿を募集し、意見交換と情報提供を行った。
	高齢者文集 「あゆみ」	高齢者	12月発行 200部	テーマを設定し、同一テーマに基づいて市内高齢者から原稿を募り、文集とし、書くことをとおして高齢者としての生き方を学ぶ。
	ホームページ	市民	随時	佐倉市立中央公民館の主催事業等を掲載して、情報の提供をする。



# 1. 家庭教育事業

## 2 歳児親子あそび教室

開設趣旨 幼児にとって遊びは、生活上なくてはならない重要な学習であり、遊びを工夫し豊かにすることは、幼児の心と身体の成長に大切なことである。本講座は、子どもの心の成長と豊かな感受性の育成を担う、親と子のための学習講座として開設する。

対象・人数 2歳児とその親 17組

開設期間 平成21年6月9日～平成21年7月21日  
午前10時～11時30分 全8回

学習目標 1. 身体で手本を示す親になりましょう。  
2. 学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。  
3. 子供の豊かな創造性を大切に、友達づくりや他の親子との交流に努力しましょう。

### プログラム

回	月日(曜日)	学習テーマ	学習内容	講師
1	6月3日(火)	お友達になろう	自己紹介・リズム遊び エプロンシアター	川口はぎ江
2	6月10日(火)	粘土あそび	小麦粉をこねこねして 粘土づくり	川口はぎ江
3	6月14日(土)	家族で遊ぼう	さくら庭園にて伝承遊び ダンボール遊び	川口はぎ江
4	6月17日(火)	楽しい遠足	大型バスに乗って TEPCO地球館へ	川口はぎ江
5	6月24日(火)	読み聞かせの楽しさ	読み聞かせ わらべうた遊び	佐倉図書館 小廣早苗
6	7月8日(火)	絵の具で遊ぼう	手がた押しやスポンジを使って 大きな絵をつくる	川口はぎ江
7	7月15日(火)	読み聞かせの楽しさ	読み聞かせ わらべうた遊び	佐倉図書館 小廣早苗
8	7月22日(火)	運動会	色々な道具を使って運動会	川口はぎ江

### 講座を終えて

最初はいつもと違う雰囲気戸惑っていた子どもも、講座の回数が進むごとに慣れ、遊びへの参加も積極的になり、その中で友達との関わり方、やってはいけないことなどを学ぶことができたようだ。

小麦粘土づくりや手がた押しでつくる絵では手が汚れることを喜ぶ子や戸惑う子など、子どもによって、十人十色の反応があることに驚き、さくら庭園までのお散歩では講師の「列から遅れても出来るだけ抱っこしないように！」の指示のもと子どもが歩く様子から、改めて自分の子どもの体力を知り、バス遠足ではお弁当の時間に普段話さないような食事の悩みについて意見交換をし、わらべうた遊びや運動会では布一枚・ペットボトル一本で様々な遊びができることを発見するなど、お母さんも8回の講座で様々なことを学んだようだ。

この講座が、親自身が子育てを楽しみ、子どもをたくさん褒めるてあげることの重要性を学び実践するきっかけとなり、更に他の親子との交流の懸け橋となれたのであれば幸いと思いながら講座を修了した。

## 「親子de食育講座」

開設趣旨 欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが子どもたちの健康に及ぼす害として懸念される中で、親子で正しい「食」の知識を身につけ、「食」の楽しさ、大切さを学ぶことを目的として講座開設する。

対象・人数 小学生とその親 12組(31名)

開設期間 平成21年8月30日(日)

午前9時～12時30分

学習目標 1. 食材について知る。  
2. 食材の扱いについて知る。  
3. 食の機能について知る。  
4. 食文化について知る。

講師 小林 由喜子

会場 中央公民館 調理室

学習内容 講義と調理実習

メニュー 太巻き寿司、米粉だんご

講座を終えて

一昨年からはじめた講座だが、当日は台風11号の近づく悪天候であったにも関わらず、11組28名の大多数の参加となった。

この講座は調理実習をするだけでなく、実習を通して、栄養・衛生的な調理方法・食事の際のルール等を学び、「食」についての理解を深めることを目的としている。また今年度は、房総の名物である太巻き寿司をつくることで、郷土について知るきっかけとなった。

参加した保護者からは「親子で楽しく料理でき、勉強になった」「次も親子で参加できるような講座を開いてほしい」等の感想が寄せられ、子どもからも「おだんごや、おすしがおいしかった」「次もまた参加したい」などの感想があった。

しかしその一方で、低学年の子どもの中には説明が少し難しかったのか、途中であきてしまっている様子の子も見られた。保護者と一緒という理由により、あえて年齢制限を設けることはせず、低学年の子どもから高学年まで、いっせいに受講した講座だが、次回に行なうときは、その辺りを考慮する必要があると感じた。

講座の最後は、講師と子どもたちの間で、料理の前には必ず手洗い・うがいをして衛生に注意することが約束され、夏休み最後の日曜日におこなわれた講座は、なごやかな雰囲気の中で終了した。

## 2. 少年教育事業

### ジュニアカヌースクール

開設趣旨 カヌーを体験することにより、地元の印旛沼に親しむとともに、年齢の異なる仲間との団体活動をとおして社会性・自発性の涵養を図る。

対 象 小学生3年生～6年生・中学生 9人

開催期間 平成21年6月20日(土)から10月18日(日) 全8回  
午前10時から午後1時まで

指 導 者 佐倉市カヌー協会

#### 学習プログラム

回	日 時	テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者
1	6月20日(土)	開講式・実習	講義と会場見学・実技	佐倉市カヌー協会
2	7月 4日(土)	実習	基本技術の習得	〃
3	8月 8日(土)	〃	〃	〃
4	9日(日)	〃	〃	〃
5	23日(日)	〃	〃	〃
6	9月 5日(土)	〃	〃	〃
7	10月 3日(土)	〃	〃	〃
8	18日(日)	〃	〃	〃

#### 講座を終えて

以前は、夏休み期間中の4日連続開催を行なったが、参加者が少なく、夏休み前の土曜日開催に変更してから6年目。基本的な技能の習得を中心としたスクールを実施したが、過去のスクール生が指導を補助し参加者にマン・ツー・マンのように教室をサポートしてくれた成果として、早くカヌーを親しめるようになり、ボールを使ったり、レースをしたり、より高度な技能を身につけることができた。

練習場所は佐倉市カヌー協会が普段の練習場所としている印旛沼中央水路であり、子どもたちはカヌーの体験を通してふるさと佐倉の自然に親しんでいる。ジュニアカヌースクール終了後も引き続き佐倉市カヌー協会のスクールで練習している児童もいる。

## チャレンジクッキング

開設趣旨 普段なにげなく口にしている食事。しかし人にとって食は大切な生活の営みである。子どもたちに食の大切さを知ってもらうとともに、自分で食事をつくることの喜びを感じてもらうことを目的として講座開設する。

対象・人数 小学校4・5・6年生 17人

開設期間 平成21年7月28日(火)・8月1日(土)・8月29日(土)  
午前9時～12時30分 全3回

学習目標 1.自分で作ったものを食べる喜びを知る。  
2.学んだことを生活の中で活かす努力をする。

### プログラム

回	日 時	学 習 内 容	講 師	会 場
1	7月28日	クレープ ゼリー	臼井西中学校 栄養士 小林由喜子	中央公民館 調理室
2	8月 1日	卵ご飯のおやき じゃがいものスープ	"	中央公民館 調理室
3	8月29日	米粉だんご オレンジケーキ	"	中央公民館 調理室

### 講座を終えて

食の大切さを学んでもらおうと開催したこの講座も、今年で6年目を迎え、佐倉地区の小学生に定着した講座となって来た。毎年、定員を上回る申し込みがあったが、今年度は20人募集の中17人の参加であり、定員の枠内に収まることができた。

講座では、簡単に調理でき、しかもおいしいをモットーにした調理実習を行いながら、食事の大切さ・料理をする際のルール・食べ方のマナーなどを学習した。後日、参加した子どもたちから「みんなで料理すると楽しかった」「最初は知らない子もいたけど、すぐに仲良くなれた」「おいしかったので、家でも作ってみた」等の感想をもらった。特に、初日のプログラムのクレープでは、薄い生地を破らないように、しかも焦げないように焼くという、おそらく小学生にとっては少々難しいと思われる作業に挑戦したが、多くの子供がきれいなきつね色のクレープを焼き上げることが出来、クリームや果物など好きな具材を嬉しそうに包んでいる姿が見られた。他の日にも、おやきを焼いたり、だんごをこねたりする作業を手分けして協力しながら進めることで、初対面の子供たち同士がすぐに打ちとけた様子で、見ているだけでも微笑ましく、楽しい講座となった。

参加者の感想からもわかるように、リピーターが多いため、それ以外の子どもたちにも参加してもらうにはどうしたらよいかを考える必要があると感じた。

## 子どもの居場所作り

開設趣旨 放課後の子どもたちのたまり場を公民館の中に整備し、公民館利用各グループの学習時中に子どもを参加させ、各グループの日常の学習の成果を子どもたちに提供し、子どもたちの一緒に関わりを交流する「子どもたちの居場所作り」を計画した。

対 象 小学生（主に佐倉地区4小学校）

開催期間 小学生の夏休み期間

学習プログラム

教室名	日程	人数	参加グループ名
花とあそぶ いけばな教室	7/22・25・29	28	佐倉市華道連盟
茶道きょうしつ	7/23・30	28	松葉会
遊べるおりがみ	8/1	23	いきいき健康を作る会
夏休み子ども料理きょうしつ	8/1	30	よもぎ
お茶のおけいこ楽しいよ	8/5	18	静和会
工芸くらぶ	8/6・22	71	椿 八郎
かげえ教室	8/8	15	影絵塾9
ヘリコプターはなぜ飛ぶの？	8/9	17	飛ばそう会
うたごえ教室2008	8/17・24	7	混声合唱団ガンツォ
日本舞踊入門	8/18～20	10	佐倉市舞踊団体連合会
おりがみ教室	8/20	23	折り紙サークル
佐倉音頭をおどろう	8/21	5	一博会
手打ちうどんを作ろう	8/28	42	市民カレッジいちさん会

事業を終えて

17年度から始めた事業である。公民館利用サークルに協力を募り16団体のサークルに協力して頂いた。今回は全部で延べ343名の小学生の参加があった。参加者は年々増加しており、特に低学年の児童が目立つ。一人でいくつもの教室に参加した児童もいた。

## 星空教室

開設趣旨 子どもの「理科離れ」が叫ばれるなか、星や星座をさがすことを通じて、星空の美しさ、天体観測のすばらしさを体験し、空を大切に思う優しい思いを育み、神話を語ることで星空の世界に親しんでもらう。また、児童だけでなく地域住民も参加対象とし、世代間交流を図る。

対 象 佐倉市内の小学生とその親 延べ93人

### 学習プログラム

回	日 時 及 び 場 所	学 習 内 容	指 導 者
1	平成21年8月21日(金) 19時~20時30分 白銀小学校ラウンジ、校庭	・夏の星座について資料をもとに説明し、夏の星座をさがす	白銀小学校評議員 木村 二郎
2	平成22年1月23日(土) 18時~19時30分 白銀小学校ラウンジ、校庭	・冬の星座について資料をもとに説明し、冬の星座をさがす	白銀小学校評議員 木村 二郎

### 講座を終えて

観測する前に代表的な星座を中心に、その星座の神話や探し方を解説した。その後外に出て肉眼で星や星座を捜し、望遠鏡で惑星や星団を観測した。佐倉地区は夜でもまだ明るく星空を観測するには厳しい環境ではあるが、親が子に星座の探し方を教え、親子での交流が自然に図られていたことは良かった。

## 通学合宿

開設趣旨 子どもたちが生活体験をすることにより、協調性、自主性を育むとともに両親の大切さを感じる機会を提供する。また、両親には、子ども離れることで日頃の親子関係を考える機会を提供する。そして、スタッフに地域の人材を入れることで、地域で子どもを育てる意識を啓発する。

対 象 佐倉小児童 21名

開催期間 佐倉小 平成21年6月28日(日)～7月1日(水)

指導者 地域人材 佐倉市民カレッジ生 公民館職員

### 学習プログラム

月 日	学 習 内 容	会 場
6月28日(日)～ 7月1日(水)	・開校式 ・献立決め・買物・朝食・夕食(調理、後片付け)・洗濯 ・入浴(もらい湯)・清掃 ・閉校式	中央公民館

### 講座を終えて

佐倉小学校の通学合宿は、ボランティアとして多くの市民カレッジ生が子どもたちに料理などの生活体験をサポートした。中央公民館の裏側の水路でのザリガニ釣りでは、カレッジ生が子どもたちにザリガニの釣り方を教えながら昔話を聞かせるなど、世代間の交流が図られた。自由時間のほとんどをザリガニ釣りで過ごしていたようだ。簡単な釣竿を自分たちで作るなど貴重な自然体験ができたようである。

佐倉東小学校の通学合宿は、新型インフルエンザ蔓延防止のため中止。

### 3 . 成人教育事業

佐倉学入門講座 ～佐倉・城下町400年と土井利勝～

開設趣旨 「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」というかたを対象に、佐倉地区を歩きながら、佐倉城を築き、城下町・佐倉を築いた土井利勝を中心に江戸初期の佐倉を講義及び散策をしながら学習する。

対象・人数 一般成人 対象50名 参加者124名

期間・回数 平成22年3月6日(講義)、3月13日、14日(散策) 全3回

学習目標

1. なぜ歴史のまち佐倉といわれているのか、その一つである城下町佐倉を知ることから学び始める。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テーマ	学習内容	講師
1	3月6日(土) 13:30 ~ 15:30	土井利勝とその時代を探る	講義 土井利勝とその時代	郷土史家 山倉 洋和
2	3月13日(土) 9:30 ~ 15:30	佐倉の殿様たちとその時代を歩く - 佐倉地区 -	城下町地区の寺社(教安寺・松林寺など)・旧堀田邸・佐倉城址公園ほか	NPO法人佐倉一里塚町並み観光ガイド
	3月14日(日) 9:30 ~ 15:30	佐倉の殿様たちとその時代を歩く - 佐倉地区 -	城下町地区の寺社(教安寺・松林寺など)・旧堀田邸・佐倉城址公園ほか	NPO法人佐倉一里塚町並み観光ガイド

事業を終えて

本事業は、「佐倉学講座」の中の1講座として開講した。

1回目が講義、2回目が散策でという、歩く前にある程度の知識を得てから、史跡散策を行うという講座。

講義については、郷土史家 山倉洋和先生にお願いし、土井利勝とその時代の佐倉について2時間程度の講義をいただいた。

散策については、佐倉市民カレッジ卒業生を中心として結成されたNPO法人佐倉一里塚に企画段階から参画していただき、これから佐倉の歴史を学んでみようという方を対象として、佐倉の殿様たちと土井利勝ゆかりの地に焦点をあてた歴史探訪とした。

「土井利勝」を講義することが少なかったため、目新しさもあって定員50名を大きく超える83名もの参加があった。このことから第2回目の史跡散策は参加者を3班に分けて実施した。

また、申し込み締め切り後も問い合わせが多く寄せられたので、平成22年度の4月に同講座を実施することとなった。

はじめて講座に参加する方が多く、時代を問わず佐倉の歴史に対する関心の高さが伺えた。今後、佐倉の歴史の関する学習の継続により、市民による「ふるさと佐倉」の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したい。



## 佐倉学専門講座 ～古今佐倉真佐子を読む～

開設趣旨 約300年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉城内をはじめ武家屋敷、風俗、風習及び動植物に至るまでを学ぶものです。  
佐倉市の歴史を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

対象・人数 一般成人 120名

期間・回数 平成21年6月28日～平成21年8月30日 全8回

学習目標

1. 約300年前の佐倉藩の町並み、風俗、風習、風土等を学ぶ。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テ - マ	学習内容	講 師
1	6月28日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	「古今佐倉真佐子」の後半部分について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
2	7月5日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
3	7月19日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
4	7月26日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
5	8月2日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
6	8月23日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
7	8月29日(土) 9:00～12:00	「古今佐倉真佐子」に登場する史跡散策	佐倉・和田地区と酒々井町の史跡散策	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
	8月30日(日) 9:00～12:00	「古今佐倉真佐子」に登場する史跡散策	佐倉・和田地区と酒々井町の史跡散策	外山信司 佐倉市文化財審議会委員

事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講。

講義については、外山信司先生(佐倉市文化財審議会委員)に講義と史跡散策をお願いし、江戸時代中期の佐倉藩の町並み、風俗、風習、風土等を学習した。

なお、講座には、佐倉市民カレッジ14期歴史コース卒業生18名がボランティアとして、講義並びに散策に協力をいただいた。

今回参加者が120人で、その内半数の方が初めて参加された方で、後半部分を学習したいので次年度もこの講座の開講を望む声が多く寄せられた。ここ最近の歴史ブームと幕末期における佐倉藩の活躍、加えて佐倉市内の史跡でのテレビ撮影などの影響もあり、多くの市民が歴史に関心を持ちそして学習に対する意欲の高さが伺えた。今後、佐倉の歴史に関する学習の継続により、市民による「ふるさと佐倉」の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したい。

## 佐倉学専門講座 ～印旛沼の自然～

開設趣旨 かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶものです。「佐倉の自然について学んでみたい」という方々を対象に、佐倉市の自然を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

対象・人数 一般成人 53名

期間・回数 平成22年2月6日・平成22年2月27日 全2回(土曜日)

学習目標

1. 佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史、自然環境等を学習します。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養います。

学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	学習内容	講師
1	2月6日(土) 13:30 ~ 15:30	印旛沼と共に生きる人々	NPO法人水環境研究所 白鳥 孝治
2	2月27日(土) 13:30 ~ 15:30	印旛沼流域における地形・地質の成り立ち	NPO法人水環境研究所 岩井 久美子 田村 嘉之

事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講した。

講師は、NPO法人水環境研究所にお願いした。各分野の専門職員による講義により、「印旛沼の自然」という講座で、印旛沼周辺での人々の暮らしの様子をはじめ、印旛沼の地質や地形とそれに伴い水の循環と幅広い分野の講義であった。

講義終了後も多くの質疑があり、参加者の関心の高さが伺えた。また、講義とは別に、実際に印旛沼とその周辺を散策することや佐倉の水道水や下水処理について講義に含めることによって、より理解が深められると思われた。

今後、佐倉の自然科学に関する学習の継続により、市民による「ふるさと佐倉」の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したい。

## パソコン広場・パソコンイベント

- 開設主旨 パソコン初心者程度のかたが自由にパソコンに触れることができるように、パソコン広場として場所とパソコン機器を提供する。さらに、市民カレッジ卒業生からなるパソコンスタッフがパソコン広場の企画・運営にあたる。
- 対 象 一般成人
- 開設日時 自由利用………毎週月～金曜日(休館・保守点検日を除く)の午前10時～午後4時に自由に利用できる
- スタッフ指導………隔週の金曜日と月1回火曜日  
パソコンスタッフが指導にあたる
- パソコンイベント……パソコンスタッフが企画し、秋に開催

### パソコン広場利用人数

内 容	日 時	利用人数(延べ)	パソコンスタッフ
自由利用	毎週月曜日から金曜日 午前10時～午後4時	196人	
スタッフ指導	隔週の金曜日と月1回火曜日	(自由利用者と重複) 167人	市民カレッジ卒業生 12期・13期・14期 各10人
パソコンイベント	平成21年11月29日(日) 午前9時40分～午後2時40分	72人	市民カレッジ卒業生 13期・14期 31人
合 計		435人	

### 事業を終えて

パソコン広場スタッフについて、20年度までは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生の3期体制で実施していたが、利用者の減少、パソコンが古い機種である、利用者の学習要求の高度化などの理由から、21年度よりパソコンスタッフは2期生として実施した。ただし、スタッフ付きの希望者が引き続き多いことから、12期生のうち参加できる者だけ、水曜日に月1回開催を依頼し、実施した。

・昨年度と比較すると利用者は減少したが、引き続き利用者からの継続希望は多く、リピーターが多いことも傾向としてあげられる。

・パソコンイベントについては、希望者の多い「ワードで年賀状を作ろう！」を3年連続で実施した。参加者には大変好評であり、機種の変化に伴い、Windows Vista、XPとそれぞれ参加者のニーズに即した形で実施できた。2つの機種、ワードの2003、2007というバージョンの違うソフトで対応ということもあり、多少の難しさはあったが、準備期間を長く設け、担当者ごとに役割を明確にしたため、当日は混乱もなく実施できた。

佐倉学体験講座 ～佐倉の民話を語るボランティア団体派遣事業～

開設趣旨 佐倉学関連事業の一つとして、市内小学校、教育センター、中央公民館が連携して、子どもたちに「佐倉学」を総合的に学べる場を提供するとともに、佐倉学の普及を図るため、佐倉市民カレッジ卒業生で結成された、佐倉の民話を語るボランティア団体「さくらっ古」を市内小学校の低学年の児童を対象に派遣し、佐倉に伝わる民話を語り継ぎ、郷土愛を育むことを目的とする。

対象・人数 市内小学生 1年生～3年生

期間・回数 平成21年5月15日～平成22年2月26日 全9回 延べ1,130人

民話の題名

姥が池物語 三つざきにされた竜神様 八幡様の白馬 鳥見塚 親はうま酒 子は清水  
 たんたん山 あざみごんげん 佐倉宗吾物語 松虫姫 印旛の鬼童丸  
 はっちむぎつね おたつのほこら 印旛沼の主 てんぐにさそわれ京見物 ほか

学習プログラム

回数	月日(曜日)	テ - マ	学校名	対象・人数
1	5月15日(金) 11:30～12:15	たんたん山 てんぐにさそわれ京見物 はっちむぎつね ほか	寺崎小学校	4年生：65人
2	6月26日(金) 10:35～11:20	みつざきにされた竜神様 鳥見塚 八幡様の白馬 ほか	根郷小学校	3年生：105人
3	7月10日(金) 10:35～11:20	みつざきにされた竜神様 いい湯だな 親はうま酒 子は清水 ほか	上志津小学校	3年生：98人
4	9月11日(金) 9:15～11:05	てんぐにさそわれ京見物 ぴょんとかしよ はっちむぎつね ほか	白銀小学校	1年生：39人 2年生：43人
5	9月25日(金) 9:25～11:00	でいだらぼっち 宝の原 親はうま酒 子は清水 ほか	井野小学校	1年生：120人 2年生：146人 3年生：147人
6	10月30日(金) 9:20～10:05	八幡様の白馬 子育てゆうれい 雪女 ほか	間野台小学校	3年生：80人
7	11月27日(金) 9:20～10:05	手遊び ぴょんとかしよ はっちむぎつね ほか	和田小学校	1・2年生：32人
8	12月11日(金) 9:35～10:20	小島のきつね 八幡様の白馬 姥が池物語 ほか	臼井小学校	2年生：80人

9	2月26日（金） 9:30 ~ 12:05	松虫姫 佐倉宗吾物語 阿辰の祠 ほか	印南小学校	1～5年生：175人
---	--------------------------	--------------------------	-------	------------

#### 事業を終えて

本事業は、「佐倉学講座」の中の1講座として開講した。

佐倉市教育センターの協力を仰ぎ、佐倉市小学校長会にて趣旨を説明し、各学校長より依頼を受ける形で実施した。

年回9回開催の募集を行ったところ、予想を大きく超える依頼があり、佐倉市教育センターの担当者に調整をしていただくこととなった。

開催にあたっては、小学校側の都合に合わせて、クラス単位、学年単位、学年を超えた合同授業と、様々な形態で実施し、合計で1,130人の生徒に実施することができた。

実施後は、担任の先生にアンケートの記入をお願いし、参加児童の理解度、成果、感想についてご回答いただいた。アンケートの内容はすべての回を通して満足度が高く、語り手の独特な言い回しや、飽きさせない大きなアクションを使った話し方などに高評を得た。また、話の合間にコマ回しや手遊び歌など、昔の遊びを交えて実施したので、長い時間でも子供たちの興味が持続できたとの声も多くあがった。

なお、ボランティアとして協力していただいている「さくらっ古」の方々も、子どもたちとの交流、先生方との意見交換を通じて、とても有意義な時間を過ごさせていただいているといった感想をお持ちで、学校側と相互に良い関係が築き上げられたと実感している。

今後、さらに佐倉の歴史学習を続けて、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したい。

## 地域づくり入門講座・家庭におけるケータイルール

開設趣旨 本事業は、携帯電話やパソコンによるインターネットに関する知識を深め、情報社会におけるモラルの育成を図ることを目的とします。また、親子を対象とすることにより、携帯電話所持の本来の目的を見つめなおし、家庭でのルール作りの一助となるようメディアリテラシー教育について分かりやすく解説する。

対象・人数 市内小・中学生とその親 延べ44人  
期 日 平成22年3月13日 土曜日  
共 催 佐倉市教育委員会社会教育課

### 学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テ ー マ	学習内容	講 師
1	3月13日(土) 10:00 ~ 11:30	家庭における ケータイルール	子どもとメディアを めぐる問題	静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾

### 事業を終えて

本事業は、全館共通事業「地域づくり入門講座」の一環事業として実施した。

地域づくり講座としての趣旨から、昨年度までは成人を対象とした事業が多かったが、今年度については、近年問題視される、若い世代のネットトラブルを取り上げて事業を企画し、社会教育課と共催で実施した。

このインターネットを巡る問題は、近年のインターネットの急速な普及に伴い、特に若い世代の情報モラルの欠如や情報セキュリティに関する知識の脆弱さにより、本人がそれと気づかぬうちにネットトラブルの加害者となり、あるいは被害者となる事例が少なくない。塩田准教授には現代のネット社会の動向やメディアとの付き合い方などを通して、家庭でのルールづくりに重点を置きながら、分かりやすく解説していただいた。講義後は、様々な視点からの質問が多くあがり、とても充実した事業となった。

# 4 . 高齢者教育事業

---

## 四年制高齢者大学校「佐倉市民カレッジ」

### 1 . 開設までの経緯

中央公民館では、年々増加する高齢者が、社会の変化とともに歩み、自己の能力を伸ばし社会活動へ参加し充実した生き方ができるよう、昭和53年5月に「佐倉市高齢者短期大学校」(以下短大)を開設した。

短大が数年経過すると学生の学習意欲が高まり、卒業した学生からさらに学びたいという希望が生まれ、短大6期生より自主的に2年間の学習を行う「生きがい学園」が誕生した。

また、短大生たちの中で4年間続けて学ぶことの意義が認識され、短大の学習内容のひとつである「市長への提言」にて「高齢者のための四年制の大学校の設置」という提言がなされた。そして、公民館運営審議会委員、福祉関係有識者、短大卒業生を含めた「高齢者の望ましい姿を考える会」が発足し、四年制大学校の設置の概要と方向性として、地域活動の実践、郷土佐倉を愛する心の育成、40歳以上への学習機会の提供などが示された。

このような経緯を踏まえて、公民館棟に接続して四年制大学校の専用校舎を建設し、「佐倉市民カレッジ」という名称のもと平成4年5月に開設した。初年度は40歳以上60歳未満の20名を含む第1学年100名、短大の卒業生が編入した第3学年96名の2つの学年によりスタートした。そして、平成5年度より新1年生と短大の編入生である新3年生を含めた4学年が揃い、本格的な四年制大学校としての歩みを始めた。

### 2 . 開設の趣旨

佐倉市民カレッジは、高齢化社会の中で、市民が健康で生きがいをもち、地域との連携をもちながら住みよいまちづくりを考え、実践をとおして生涯学習のできる場となるよう開設されている。

また、佐倉市民カレッジ(以下カレッジ)では高齢者のみならず、高齢準備期である40歳代からの人にも学習の機会を提供し、高齢者と互いに学び、支え合うことを大切なねらいとしている。

### 3 . 入学対象・定員

#### (1) 入学対象者

佐倉市に在住する市民で、健康で継続して学習できる人  
積極的に自主学習ができる人  
卒業後は地域活動に積極的に参加できる人

#### (2) 定員：100名(年齢別募集)

各学年の年齢構成は以下のとおり  
60歳以上 80名  
40歳から59歳まで 20名

なお、平成21年度の応募・入学状況は以下のとおりである。

募集学年	募 集 定 員	応 募 数	入 学 者 数
第1学年	60歳以上 80名	186名	85名
	40歳から59歳まで 20名	15名	15名
	計 100名	計 201名	計 100名

## 平成21年度の学生数

学 年	クラス コース	入学・進級者		修了・卒業者	
		人 数	小 計	人 数	小 計
第1学年	1 組	50	100	49	95
	2 組	50		46	
第2学年	1 組	48	98	47	95
	2 組	50		48	
第3学年	福 祉	25	92	22	88
	歴 史	25		25	
	情 報	17		17	
	元 気	25		24	
第4学年	福 祉	25	88	24	86
	歴 史	18		17	
	情 報	19		19	
	元 気	26		26	
計			378		364

## 4 . 佐倉市民カレッジ運営委員会

カレッジには、佐倉市民カレッジ運営委員会を設置している。委員会は佐倉市公民館運営審議会委員、佐倉市民カレッジ卒業生、識見を有する人等によって構成している。

また、運営委員会はカレッジの運営や学習内容の方針、学生の進級などについて審議する。

### ・佐倉市民カレッジ運営委員会委員

	役 職	人数	氏 名
1	佐倉市教育委員会教育次長	1	高崎 正志
2	佐倉市公民館運営審議会委員	1	高比良 直美
3	佐倉市民カレッジ卒業生代表	3	山田 滋 安田 茂樹 白石 由美子
4	識見を有する人	5	遠山 正博 松本 惇逸 越沢 七子 安蒜 嘉榮 内田 正恵

平成21年4月1日現在

## 5 . 佐倉市民カレッジの学習内容

### (1) 「であい課程」の学習

カレッジの学習期間は4年間であるが、その前半の2年間は「であい課程」という。主に一般教養として、佐倉の歴史、健康、家庭、生きがい、法律、環境、市政、福祉、経済、仲間づくり等の広い分野を学ぶ。

また、「であい課程」では、今までの生活になかった自分とであい、仲間とであい、地域にであう中で、新たな生きがいを見つけることが学習のねらいとなっている。

「であい課程」2年間の学習日数は70日程度で、約140単位に及ぶ。その学習形態は講義形式の



ほか、話し合い、身近な公共施設などについて学ぶ市内めぐり、いくつかのグループに分かれ、テーマを設定してその内容について討議し、代表者が発表するグループ発表、また個人発表、健康運動などの実習などと様々である。このほか、学生が自ら考え、自己責任において行う地域活動の自己申告取得単位制度を設けている。

「**であい課程**」1年では、生きがいについての学習がある。「私の生きがい」をどのようなものに求めているか、何が生きがいになっているか等自分の生きがいについて考え、お互いに発表し合い相互理解を深め、文集「私の生きがい」にまとめる課題がある。2年の、「市政を学ぶ」の学習テーマでは、実際に市政に携わっている市役所の職員等を講師として招き、市民公益活動の推進、基本計画と財政、環境と環境保全、福祉と健康、教育施策「佐倉学」等について学習する。それをもとに、個々に自分の考えるまちづくり構想をもち、各グループに分かれて実践活動を行い、その成果を「まちづくり実践報告会」で発表した。一連の学習の過程で、個々に市政についての理解を深めるのが大きなねらいである。

## (2) 「専攻課程」の学習

3年生からの「専攻課程」では、講義と実践をとおして、卒業後も地域で生き生きと活動ができるようになることを目標として設置している。

また、他コース、他学年の講義を聴く聴講制度、さらに地域活動をすることで単位を取得する自己申告取得単位制度を設け、学生が自主的に学習できる体制を整えている。

「専攻課程」には4つのコースを設けている。学習日数は2年間で40日程度、約80単位に及ぶ。コースの名称は「あったか福祉コース」「ふるさと歴史コース」「さわやか情報コース」「ゆっくり元気コース」である。

### 「あったか福祉コース」

「あったか福祉コース」では、現代的課題となっている介護を通して福祉活動を考えていく時間とし、3年生では一歩専門的な理論・技術を習得し、制度への理解を深め、介護を生活に身近な面からとらえ総合的視点で学習するために、3級ヘルパー養成プログラムを活用した学習をした。介護制度を理解することにより、利用者としての制度活用を図り、その結果サービスの質の向上に寄与する。

4年生では「他を認める」「話を聞く」「話をする」という、人と人の交流の基本を学び・経験することは、人が生活し地域社会を構成していく中で必要な「コミュニティ」形成の原点を考え・学んでいくことにつながり、カレッジ学習の基本である「地域づくり」を根本から学んでいくことにつながると考え、「傾聴」をテーマとした学習に取り組んだ。

また、学習したことを他に伝え・教えることで「学び」を一層深めていく時間として「学び合い学習」を行った。

### 「ふるさと歴史コース」

「ふるさと歴史コース」では、郷土佐倉の身近な偉人・先覚者や、歴史的町並み、またその時代にいたる変遷、背景について学び、郷土佐倉を愛する心を育てていく。

その内容は講義形式の授業を受けるだけでなく、自主的にテーマを設定して研究レポートを作成し、発表する主体的な学習を行っており、さらに、今後の地域活動につながるよう、他コースに佐倉の史跡を案内して教えるという「学び合い学習」を行っている。

現在、卒業生による「歴史ボランティア」グループが結成されており、歴史コースでの史跡散策などの指導や学習補助をボランティアで行っている。

### 「さわやか情報コース」

「さわやか情報コース」では、デジタルデバイスと言われる情報格差を埋めると同時に、デジタル技術を使用した情報発信を学ぶことで地域の情報の共有化を進めることを目的として、様々な学習を行

っている。

佐倉市の情報施策や、情報化社会一般の現状についての講義を聴くほか、情報を伝達する機器を利用して、自主的に地域活動ができるようになるために、3年生では基礎からのパソコン実習、「公民館だより」の作成、ホームページの作成。4年生ではパソコンの学習成果を活かしたイベントの企画・実施や、ビデオ・デジカメ撮影実習を行っている。また、地域活動における名簿作り。会計資料作成に役立つように、表計算ソフトの講義も行っている。また学習日以外の、パソコン自主学习も盛んである。

そのほか、佐倉市の情報ネットワークの拠点である広域高速ネット296を見学し、高度情報化しつつある地域の現状についての理解を深める学習も行う。

#### 「ゆっくり元気コース」

「ゆっくり元気コース」では、自分の健康管理を自分で行うために必要な知識の習得を講義・実習をとおして行う。

3年生では「歩くこと」を健康づくりの基本と考え、ウォークラリーのコースを作成し、作成されたコースが市民カレッジや地域の行事に活用されることにより市民カレッジ生の地域参画が期待される。そのほか、生活習慣病（成人病）に対する理解と予防、地域ぐるみの健康づくりなどについて学ぶ。さらに、リズム体操や太極拳、ヨガなどの実習をとおして、自分に合った健康づくりを発見する。

4年生では、今までの主体的な学習の過程や成果を実践活動を通して、健康の維持と地域活動への導入を図る。具体的には、NPO、協会での実践活動を通して地域での活動を学ぶ。また、各種スポーツイベントに参加し、多様な健康づくり、レクリエーション等への理解を深めるとともに事業の企画運営を考察する。そのほか、健康づくりに関する今後の自分たちの活動について話し合う学習も行っている。

「専攻課程」の学習のまとめとして、それぞれのコースで学んだ事を伝え合う「学び合い学習」を今年度より行った。また「学んだことを活かす」というテーマでそれぞれのコース内で個人発表や話し合いを行い、そして、各コースの代表者による意見発表が行われた。

カレッジでの学習成果や、現在自分が行っている地域活動を紹介する中で、今後の自分の高齢者としての生き方について、長年蓄積した豊かな知識と経験から意見を発表する。それをいかに実践していくかが、カレッジを卒業してからの課題となる。

## 6. 佐倉市民カレッジの学習の特色

カレッジでは、学習の質を高め、より専門的な学習を行っていくために、他施設と連携を取りながら学習を展開する。特別養護老人ホーム、広域高速ネット296、武家屋敷、東京情報大学などと連携して学習を進める。また、これらを含めた平成21年度の主な校外学習は、以下のとおりである。

### 1 学年

#### 健康づくり

5月29日、第4学年元気コースの構成によるウォークラリー - 坂道・小径をたどり城下町佐倉を歩く - が行われ、各クラス6班に分かれて佐倉の街を散策した。

#### 市内めぐり

6月12日、6月19日にクラス別にそれぞれ実施し、酒々井リサイクル文化センター、しすいハーブガーデン、直弥公園、川村記念美術館など市内の様々な施設を見学してまわり、佐倉市について理解を深めた。

#### 専攻課程各コースの校外学習

3 学年    5月27日    歴史  
          6月17日    元気

佐倉の史跡散策

ウォークラリーとニュースポーツ

	6月10日	情報	東京情報大学見学と講義
	7月8日	歴史	志津の史跡散策
	9月2日	元気	順天堂大学1日体験授業(1・2年元気コース合同)
	9月16日	福祉	佐倉ホワイエの見学・体験
	9月30日	歴史	臼井の史跡散策
	10月7日	福祉	国際福祉機器展見学
	10月14日	歴史	大佐倉の史跡散策と自然観察
	10月14日	情報	広域高速ネット296スタジオ見学
	10月28日	歴史	成田山の歴史を学ぶ
	11月18日	元気	自分たちでルートを歩き、ウォークラリーコースを検証する。
	11月25日	情報	デジカメ撮影会 - 城址公園 -
	1月20日	福祉	特別養護老人ホーム「白翠園」見学
4学年	5月26日	歴史	弥富の史跡散策
	6月23日	歴史	佐倉連隊の時代を歩く
	7月14日	歴史	佐原のまちづくりから学ぶ
	9月15日	4コース合同	草笛の丘で自然観察と陶芸
	10月13日	歴史	佐倉の歴史を伝える(史跡案内)
	11月17日	元気	バードウォッチング体験 - 臼井地区の散策 -
	12月1日	福祉	佐倉ホワイエでの体験学習
	12月15日	元気	ミニテニス - 市民体育館 -

## 7. まちづくり実践報告会(第2学年)

2学年では、私たちの考えるまちづくりについて、行動のための具体策を話し合い「まちづくり実践報告会」を実施した。この学習は、カレッジ生個々の市政に対する学習の取り組みを重視する形を取り、市政の学習をもとに自分ならこのようなビジョンを持つと個々に考えをまとめ、その後に課題意識を同じくする仲間グループ(課題部門別)を形成し、各部門別に調査研究、討議を重ねた内容を実践し、それらの実践活動を、平成22年1月28日に市長を迎えて、1・2年合同の学習形態で、各部門の代表者により発表した。なお、発表に際して多様な機器を活用するなど創意工夫が見られた。

その発表内容は、「観る、知る、食べる(野草観察と野草料理の紹介)」「畑から花へと緑を届けてまちづくり」「Change! 環境を考えよう!」「矢羽根看板と案内板の清掃・美化活動」「JR佐倉駅北口ブロンズ像の清掃・美化活動」「上座総合公園の樹木名普及活動」「子どもと私たちが共生できるまちづくり」の7点であった。

## 8. 佐倉市民カレッジ生の課外活動

カレッジ生は自主的にサークルを結成し、学習日以外にも積極的に活動している。これらのサークルに対し、公民館では活動の場を提供している。

日頃の学習とは異なり、趣味を深める活動や地域社会へ貢献していくための活動などそれぞれに様々な活動を行っている。中でも、園芸サークルは、異学年や卒業生と交流を深めつつ、公民館周辺の花壇の管理、環境美化活動をボランティアで行っており、四季折々の花壇や玄関スロープの花々が来館者の目を楽しませている。

## 5 . 広報・展示事業

### 広 報 事 業

#### 「公民館だより」

ね ら い 中央公民館主催事業や中央公民館の使用申込みについてなどを紹介する。

発行回数 年1回

発行部数 1,500部

配布方法 各公民館、図書館、コミュニティセンター

内 容 佐倉市民カレッジ であい課程・専攻課程の概要、文化祭、スポーツフェスティバル  
まちづくり実践報告会、サークル活動 他

展 望 佐倉市の広報紙と連携をとりながら、幅広い紙面づくりに心がけたい。

#### 「なかま」

ね ら い 高齢者の手による、高齢者の啓蒙と情報提供及び紙面を通しての仲間づくりをめざします。

発 行 年12回(毎月1回)

発行部数 毎月1,200部 (年間1,200部×12ヵ月=14,400部)

配布方法 市内公民館・図書館・老人福祉センター・老幼の館・コミュニティセンター等で配布。  
また、編集委員による配布や市民ハイキング参加者への配付も行っています。

編集方法 佐倉市高齢者短期大学の卒業者、佐倉市民カレッジ生とその卒業生からなる高齢者のボランティア編集委員20名が編集会議を毎月2回開催しています。編集会議では、原稿の依頼・校正・割付けなどの編集作業と、年間計画やこれからの方向性などについて話し合いを行っています。また平成17年度からは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生がボランティアで版下作成を行っています。

内 容 A4版4ページの体裁で、1面は市長及び編集委員の原稿、2・3面は市内在住の高齢者の方から頂いた投稿文を掲載しています。4面は成人向けの中央公民館の主催事業や公民館からのお知らせや、コラム的なさくら道、編集委員によるあとがきを掲載しています。

また、今年度『なかま』編集会議が、長年にわたり社会教育に貢献した功績により、平成19年度印旛郡市社会教育委員連絡協議会表彰を受けました。なお、平成21年度の1面から3面の題と投稿者は次のとおり。

#### 「なかま」掲載記事

発行年月	号数	主 題	内 容
平成21年 4月	390号	遂に出た新記録！佐倉市民ハイキング	(編集委員 石崎幸助) 命名の不思議(松山洋子) 冬の夜空(清澤瞳子) 北京の空の下で(許昭美) 心豊かな日々(中邨淑子)

5月	391号	わが家のハッピー（編集委員 巴安治） 季節の風を感じて（工藤啓子） ゴルフを以って人を観ん（北村耕三） 下総まわらし宿百観音（斎藤雄） 心うきうき（鈴木治男）
6月	392号	アメリカの旅（編集委員 栗田勢子） 縁（武内淳子） 孫の入院（薄井隆） 五月雨（松井史郎） 「エコ ライフ」のすすめ（佐藤征雄）
7月	393号	世界自然遺産白神山地を歩いて（編集委員 伊藤由紀子） 知的障がいがある人の高校進学（中邨淑子） 男の家事（林久子） 義父のこと（酒井綾乃） コローと等伯（村田長保）
8月	394号	遠い夏の日の記憶(2)（編集委員 岩淵幸雄） 子ども時代（梶谷羊子） 世界遺産エジプトを訪ねて（阿倍ヨシ子） 孔子と楷樹（松井弥彦） 殺人事件とオス（奈良雅広）
9月	395号	読書雑感（編集委員 服部一宏） わくわく銚子へ（鈴木治男） スクエアダンスとの出会い（宍倉昭夫） 真夏の挑戦（亀野陽太郎） つゆの花あじさい（清澤瞳子）
10月	396号	人生是偶然（編集委員 岡本文隆） 思い出ポロポロ（宮本沙代） 電車内のお化粧（塚原謙二） あっち向いてホイ！（永見一） 早寝 早起き 朝ごはん（斎藤隆）
11月	397号	魅せられて（編集委員 松山洋子） 桶川宿の旅（小泉信子） 身辺雑記、切ない将棋盤（富原敏光） 面白い本（小沼恵理子） 痛みについて（奈良雅広）
12月	398号	還暦（編集委員 鷗木聖次） 女優のババは（坪井栄子） ヴィーナスの脚（村田長保） デイサービス「ちとせ」で（加瀬清子） 「私の健康法」（吉井弘）
平成22年 1月	399号	新春に寄せて（佐倉市長 蕨和雄） 青春十八きっぷ（鈴木綏） 通過儀礼（渡邊堅志） 兎追いし彼の山（伊藤弘輝） ヤップ島の石貨（伴通正）
2月	400号	『なかま』400号を記念して（佐倉市教育長 葛西広子） ジージ好きなひと（佐々木栄） 公德心（吉野一志） 川柳で楽しく（及川童太郎） 武家諸法度を読んだ（木村幹男）
3月	401号	子供の時代へタイムスリップ（編集委員 田中修司） 市民ランナーとボランティア（斎藤雄） 「なかま」（神田久恵） 佐倉市民ハイキングに初めて参加して（田中弘幸） 年賀状（塚原謙二）

### 高齢者文集「あゆみ」

ね ら い 高齢者の自由な意見や考えの発表の場であり、また、それをもとにして高齢者同士や異なった世代間の交流をはかる。

対 象 市内在住・在勤で60歳以上の高齢者

発 行 年1回 200部

配布方法 投稿者には1冊無料配布、それ以外は有償で頒布

編集方法 高齢者のボランティア編集委員26名で構成している編集会議を随時開催し、テーマの設定、原稿募集、編集、校正などを行う。

原稿募集 こうほう佐倉で広く募集。

内 容 発行号ごとにテーマを設定し、そのテーマについての意見・考えをまとめ投稿していただく。

なお、平成21年度をもって事業を休止した。

あゆみをふりかえって

年度	号数	テ - マ	投稿数	頁 数	表 紙
昭和49	1	長寿大学生の文集	20	19	菖蒲と燕(イラスト)
50	2	長寿大学生の文集	14	19	東関東自動車道(イラスト)
51	3	生活記録集・長寿大学によせてなど	23	49	佐倉厚生園の庭にて
52	4	ボランティアを考える	29	58	ゲートボール
53	5	ふるさと佐倉	52	86	版画
54	6	80年代の夢	17	28	高齢者短期大学校、特別授業「一日議会」風景
55	7	若い頃の思い出	25	42	風景画
56	8	(特にテーマなし)	57	86	市役所屋上より、国立歴史民俗博物館をのぞむ
57	9	これからの夢	66	109	ユーカーが丘の「ボナ」
58	10	私達の佐倉	71	108	麻賀多神社
59	11	高齢化社会	60	75	印旛沼の水鳥の群れ
60	12	交流の輪	69	83	新装の国鉄佐倉駅
61	13	私の健康	71	97	佐倉朝日健康マラソン大会のスタートの様子
62	14	私の楽しみ	70	95	ダンスを楽しむ(ワープロ画)
63	15	旅	96	133	成田街道、ありし日の伊篠の松並木
平成元	16	出逢い	76	108	チューリップ広場
2	17	その時、あの時、私は	84	120	新装の鹿島橋
3	18	親の思い出	87	126	改築後の中央公民館
4	19	私の夢	63	83	鷹匠橋と彫刻(ワープロ画)
5	20	チャレンジすることの楽しみ	54	76	オランダ風車(ワープロ画)
6	21	私の戦後50年	79	100	佐倉市立美術館(ワープロ画)
7	22	忘れ得ぬ人	54	82	佐倉市立志津図書館
8	23	私が今、伝えたいこと	49	72	岩名運動公園陸上競技場
9	24	近ごろ、思うこと	47	65	佐倉市ヤングプラザ
10	25	二十一世紀に向けて	60	81	旧堀田邸
11	26	(6つのテーマから選択)	49	70	和田ふるさと館
12	27	愛・戦中戦後の思い出	78	118	ミレニアムセンター佐倉
13	28	ふるさと 大切にしたいもの	75	118	佐倉消防署
14	29	私の昭和 私の楽しみ	76	133	佐倉・国際印旛沼花火大会
15	30	佐倉に住んで 思い出	64	105	あゆみ1号から29号までの表紙
16	31	子や孫に伝える思い 旅の思い出	45	85	あさがお
17	32	昭和の時代 豊かな老いとは	42	72	鷺
18	33	美しい国日本とは 近頃の話題について	45	77	コーヒーカップ
20	34	高齢社会、佐倉の未来	37	55	タウンゼント・ハリス像
21	35	私の関心事、希望・未来、愛、あゆみ	34	51	草ぶえの丘バラ園より

## 6 . 団体育成事業

---

### 定期利用グループ懇談会

開設趣旨 中央公民館を利用しているグループ・サークルに対し、公民館の利用方法について説明し、利用にあたっての協力を求め、各グループがお互いに快適な学習活動ができるような意識づけをする。また、各グループの情報交換や公民館への要望を聞く場とし、同時にグループ・サークル間の懇談を図る。

開催期日 平成21年4月23日(木) 午前10時～正午まで

対 象 中央公民館利用グループ・サークル 203団体

内 容 1) グループ活動への期待  
2) 平成21年度中央公民館利用の手引き  
3) 公民館への要望・質問  
4) 事務連絡

### 調理室利用グループによる調理室点検

開設趣旨 調理室を定期利用しているグループに対し、お互いの交流の機会を作ると共に、調理室の効率的な活用と適正な運営を図る。

開催期日 平成21年 7月13日(月) 午前10時～11時30分

平成22年 1月25日(月) 午前10時～11時30分

対 象 調理室を定期利用しているグループ

13団体 26名 14団体 28名

内 容 1) 調理室の清掃  
2) 公民館備品の整理・点検  
3) グループ備品の整理  
4) グループ間の懇談  
5) 公民館への要望

## 佐倉地区子ども会育成会連絡協議会

佐倉地区子連は、佐倉地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く諸関係機関団体との連絡・調整を図り、各単位子ども会の健全な発展に寄与することを目的として結成された。会の運営は、役員が中心となっており、総会・役員会・各事業などを実施している。中央公民館では、事務局としての役割、子ども会安全会等の申込みの受付、佐倉市子ども会育成連盟との連絡、備品の貸与等を行っている。子どもの成長にとって、地域における子ども会の役割は、重要性はと思われるので、これからも活動を支援していきたい。

### 単位子ども会数及び会員数

単位子ども会	8団体
会員数	389名(昨年より9名増加)
幼児	34名(昨年より3名減少)
小学生	295名(昨年より14名増加)
中学生	0名(昨年より1名減少)
育成者	60名(昨年より1名減少)

### 主な事業

実施月日	事業	内容	会場
H21.4.21(火)	平成21年度総会	20年度事業報告 20年度決算報告 21年度事業計画 21年度予算案	中央公民館 学習室1
H21.5.9(金)	佐倉市子ども会育成連盟 定期総会	21年度総会	中央公民館 学習室3
H21.5.27(金)	第1回役員会	育成者研修について 今後の日程について	中央公民館 会議室
H21.7.2(火)	育成者研修会	車内ゲーム研修 施設見学	鉄道博物館
H21.10.2(金)	第2回役員会	中央交流フェスティバル・クリスマスコンサートについて	中央公民館 会議室



H21.10.5(金)	佐倉市子ども会育成連盟 第1回役員会	中央交流フェスティ バルに向けて	市役所1号館6階 中会議室
H21.10.19(月)	臨時役員会	クリスマスコンサ ート、市子連補助金につ いて	中央公民館 研修室2
H21.11.21(日)	中央交流フェスティバル	中止	佐倉市民音楽ホール
H21.12.13(日)	クリスマスコンサート	中止	中央公民館 大ホール
H21.12.16(日)	講習会	備品紹介、ラミネート 研修	中央公民館 アトリエ
H22.3.4(木)	第3回役員会	21年度活動報告及 び22年度に向けて	中央公民館 学習室3
H22.3.29(金)	佐倉市子ども会育成連盟 第2回役員会	21年度活動報告及 び22年度に向けて	市役所2号館 会議室